

## あとがき

本校は、本『現状と課題』で対象としたこの期間で大きく変化しました。最も大きな変化は、学科改組であります。学科改組については、平成 27 年度までにまず、新学科の構想および各方面へのアンケートを行い、本校の改組に対する意見を伺いました。これをもとに新学科の構想と新しいカリキュラムを作成しました。すなわち、新しい「総合理工学科」は、今までの 4 学科に生物・化学を含む基礎科学分野を追加して、再編・統合した学科であり、4 つの専門系を持ち、1 年生はすべて同じ授業を受け、2 年生から専門系へ配属することで異分野融合力とその基盤となる基礎科学を学ぶことができる学科としました。2 年生以降においても専門系だけでなく、学年共通の科目を設定しました。また、異分野融合の課題演習の授業として、3、4 年生で全系横断演習Ⅰ、Ⅱという科目を設定し、学生は分野が異なる各教員グループが提示した課題から希望の課題を選択し、課題解決型の演習を行い、年度末にはその成果をポスター発表しました。

その他、多種多様な取り組みを行ってきましたが、主な活動のいくつかを年度毎に以下に記載しておきます。

### <平成 25 年度>

平成 25 年度は、後援会や同窓会と連携を図り、創立 50 周年の記念講演会、記念式典、記念祝賀会を実施しました。また、50 年史・記念誌も刊行しました。

学生募集に関して、オープンキャンパス、アドミッションアドバイザーによる中学校訪問、県内中学校、学習塾との意見交換を行い、積極的な広報活動を実施しました。また、女子生徒の進学希望者に向けて、女子学生の日常が分かる「高専女子百科 Jr.編集ワーキンググループ」を設けて、高専機構全体の方向性を取り入れたリーフレットを作成しました。

学科改組に向けて、8 月には入口・出口の意識調査のため、県内全中学校及び全国の関係企業に対し、学科改組案に対するアンケートを実施しました。その結果からさらなる検討が必要となり、平成 28 年度改組開始を目標とし、引き続き審議を推し進めました。

自己点検の結果を評価していただく方法の一つとして、社会の各分野における有識者から構成される有識者懇話会を実施し、助言をいただきました。

### <平成 26 年度>

平成 26 年度は、(一社)日本技術者教育認定機構(JABEE)による認定継続審査および高等専門学校機関別認証評価を受審し、それぞれ、一部改善が必要な部分はありましたが、評価基準を満たしているとの評価を得られました。

### <平成 27 年度>

平成 27 年度は、学科改組前年ということで、改組に伴う各種規定等の改訂を行いました。また、「改組に向かったの具体的な行動について」を年間テーマに設定し、全 5 回の F D 研修会を行いました。

広報活動については、広報委員会を設置して広報を統括的に行えるようにしました。例えば、公用車用に「津山高専」の名称とキャラクターの脱着式シールを作成し、岡山駅西口には新たな看板を設置しました。また、従来の中学生向けに加え小学生向けのオープンキャンパスを開催して約 600 名の小学生・保護者にご参加頂きました。

学科改組に併せて専攻科の改組についても検討を始めるとともに有識者懇話会を実施し、助言をいただきました。

#### <平成 28 年度>

平成 28 年度入学生から、今までの 4 学科を統合し、「総合理工学科」に改組しました。「教育研究支援センター」を「技術部」に名称変更、地域技術を用いた革新的製品等の研究・開発などを行う「つやまイノベーションセンター」を新たに設置しました。

全国の国公立高等専門学校の教職員が一堂に会して教職員の資質や高等専門学校の教育ポテンシャルの向上を目指す全国高専フォーラムの主管校を本校が担当し、高専機構本部と協力して、企画運営を行いました。また、平成 28 年度から平成 30 年度にかけてはグローバル高専事業第 4 ブロック（中国・四国地区）の拠点校として、グローバル人材育成のためのさまざまな事業に取り組みました。

#### <平成 29 年度>

平成 29 年度は、改組 2 年目で、教員組織も新たに一学科体制に改めたことに伴い、一般科目の教員も 4 つの専門系へ配属することで、系を渡って専門教育および教養教育を行っています。

入学者の募集に関しては、第 4 ブロック内 5 高専合同の進学説明会を姫路で実施し、推薦入試の会場に岡山会場を追加しました。地域連携に関してはつやまイノベーションセンターに設置した 3 研究会（メタル、ロボット、IT）のオープニング式典、合同研究例会を開催し、教員の研究発表や地元企業との意見交換などを行うとともに、有識者懇話会を実施し、助言をいただきました。

また、全国の高専全体で H30 年度からシラバスを WEB で公開するシステムの運用が始まりました。同時に、国立高専として教育の質を保証する取り組みであるモデルコアカリキュラム（MCC）の到達目標への対応を開始しました。なお、本校は改組進行中のため総合理工学科の到達目標の実施は、学年進行で対応していきます。

#### <平成 30 年度>

平成 30 年度は、近隣他高専との入試の共同開催を検討する中で、学力入試会場に福山会場（弓削商船高専と広島商船高専と共同）を追加しました。海外展開においては、令和元年度（平成 31 年 4 月）よりタイのチュラポーン王女サイエンスハイスクール（PCSHS）から本校を含む日本の 6 高専へ、1 年生の学生を受入れることとなりました。そこで、PCSHS の生徒に各高専を紹介するためのキャラバン隊を編成し教職員 4 名が参加するとともに、受け入れのためにカリキュラムの設定等の準備を行い、寮の改修も行いました。また、地区大

会から選ばれた本校のチームが全国高専ロボコン大会に出場し、近隣の美作大学とは国際目標である SDG s の実現に向けて共同宣言を行いました。

平成 30 年度で、総合理工学科一期生は 3 年生となっています。

今後の課題として、まずは令和 2 年度の新学科の完成があります。より良い学生を育てるため、教職員及び学生はもちろん地域の方々の協力も得て、改組完成に向けて取り組んでいきます。今後の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

最後にこの『現状と課題』の作成においては、教育システム点検委員会と法人評価ワーキンググループをはじめ多くの皆様にご尽力いただき感謝いたします。

令和 2 年 3 月

津山工業高等専門学校  
教務主事 藪木 登